

親子の瞳の輝く日本： 関係性の響きあう地域づくりによる虐待予防の実践

*当財団(講座)は「臨床心理士」資格取得者の研修機会として、(公財)日本臨床心理士資格認定協会より「短期研修機会(ワークショップ)」の承認を受けております。<承認番号:W29111、承認期間:2017年7月1日~2022年6月30日>

期 日：2020年2月29日(土)・3月1日(日)

受講対象：医療、看護、保育、教育、治療、相談、指導、福祉などに携わる専門家および学生他

定 員：80名(定員になり次第締切りますのでホームページなどでご確認ください)

受講料：14,000円(税込み) ※昼食は各自おとりください

主 催：公益財団法人 明治安田こころの健康財団 ☎03-3986-7021

会 場：明治安田こころの健康財団 講義室 ※詳細地図は受講証に添付します

東京都豊島区高田3-19-10

JR山手線・西武新宿線・東京メトロ東西線「高田馬場駅」下車徒歩約7分

「シーッ!泣いちゃダメ!ママが虐待していると通告されちゃう」思わずそう口走る日本のお母さん。

誰がそんな風に母親を追い詰めるのか!拒食症、睡眠障害などの心身症、不登校、引きこもり、抑うつ、自殺、自傷行為、逸脱行為など、子どもの心の問題をたどると、ものいえぬ乳幼児期からの人知れぬ複雑な対人ストレスの積み重ねが認められる。戦後の効率中心の学歴競争社会の生み出した人々の生きづらさは、今全国的に家族機能不全を引き起こし、親子は貧困や格差や世間の同調圧力により、瞳の輝きを失っている。子ども時代には子どもらしく、親に甘え、隣近所の子もたちと笑い転げて遊ぶ体験が必要である。

日本には昔「児やらい」という「育児」を意味する語があった。親はかわいいわが子を、家の外の子ども集団にそっと押し出した(やらい)。病気や障がいを持つ子もそうでない子も同じ地域の子どもの集団で群れて遊ぶのを、地域の大人は温かく見守った。このような親子を包む共同育児の対人関係オーケストラこそ、人が生まれながらに持つ「社会脳」を育てるのである。今子育て中の親自身が、子どもの集団遊びや一家団欒を味わうことなく大人になり、育児混乱に陥り苦しむケースも多い。

日本に今ふたたび、子どもを自然に慈しみかわいがる育児風土を取り戻したい。

本講座では、被災地、療育現場、家庭紛争の渦中、あるいは全国の親子や集団において苦しむ子どもを擁護する専門家により、親子の瞳の輝く多様性を受け入れるコミュニティー創りについて講演いただく。また日本の育児の特質を、海外のフィンランドやフランスでの育児を熟知する社会学者にも語っていただく。現代の育児混乱と虐待とDVの本質を、社会病理と乳幼児精神保健をふまえて心の深い層からとらえ直し、効果的な予防につなげていきたい。

<<企画講師/渡辺 久子>>

【プログラム】 ※時間割・テーマ等が変更となる場合があります。予めご了承ください。

日程	時間	テーマ	講師(敬称略)
2月29日(土)	9:30~10:45	育児混乱、いじめ、DV・虐待を生きること —子どもから学ぶトラウマの深層—	LIFE DEVELOPMENT CENTER 渡辺醫院副院長 児童精神科医 渡辺 久子
	11:00~12:15	腹の底から笑いあい、育てにくい子を共に育てる —鹿児島島の30年の療育実践—	むぎのめ子ども発達支援センターりんく 園長 大迫 より子
	13:15~14:30	語らい、信頼、関係性 —フィンランドのネウボラとダイアログからの示唆—	吉備国際大学(通信制)大学院 社会福祉学研究科長・教授 高橋 睦子
	14:45~16:00	フランス文化から見る現代日本の育児現場の良さと大変さ	上智大学 名誉教授 ミュリエル・ジョリヴェ
	16:00~16:30	<質疑応答>	
3月1日(日)	9:30~10:00	一時保護・養護施設、里親家庭、避難所、難民キャンプ —子どもの声—	(前 掲) 渡辺 久子
	10:15~11:30	子どもの健康な発達を守るための法と司法の役割	みのり法律事務所 弁護士 長谷川 京子
	11:45~13:00	今、改めて「愛着」を考える —事例：乳幼児期のトラウマ体験から—	すずきひろこ心理療法研究室 室長 児童精神科医 鈴木 廣子
	14:00~15:15	日本の子どもの真の復興は福島から —地域の子どもを育む子育て支援と保育者支援—	菊池記念こども保健医学研究所 菊池医院 院長 菊池 信太郎
15:30~17:00	<<パネルディスカッション>> —親子の瞳の輝く日本—		パネリスト：出講講師(予定) 司 会：渡辺 久子